

## 第5回「福島県イノベーション・コースト構想の 具体化に関する県・市町村検討会議」議事概要

○日 時：平成27年5月20日（水） 13：30～15：00

○場 所：ホテルサンルートプラザ福島「芙蓉」

### 1 開 会

### 2 挨 拶

#### [福島県企画調整部長]

- 6月上旬のイノベーション・コースト構想推進会議で、これまで検討してきた各分野についての取りまとめが行われるのに合わせて、県・市町村で検討してきた分野についても、取りまとめたいと考えている。
- 本日は、これまで提示してきたエネルギー・農業の2分野のプロジェクトについて、変更部分を中心にご説明させていただく。実質的に、本日が最後の会議になると思われるので、忌憚のないご意見を賜り、それらを反映させた形で報告書として修正・まとめを行ったものを、推進会議で説明したい。

### 3 プレゼンテーション

#### (1) 南相馬ロボット産業協議会の取組について

資料1を【南相馬ロボット産業協議会】より説明

#### [福島県企画調整部長]

- 1点質問させていただきたい。  
資料10ページに「ロボット研究・実証拠点の有効活用には、研究開発機関、性能・安全性評価機関、民間企業の参画は必須」とあるが、この3つは、同じ区画にないといけないのか、それとも相互連携できる範囲の近傍にあれば良いのか。民間企業から見た感覚を教えていただきたい。

#### [南相馬ロボット産業協議会]

- 性能・安全評価に関して言えば、ヨーロッパに製品を輸出しようする場合の条件として、必ずCEマーキングという基準に適合しているか検査を受けて、大丈夫という判定が必要になる。そういった検査の出来る機関が近くにある体制をとることが必要。
- 研究開発機関は、できれば国の機関がすぐ近くにあって、法律的な問い合

わせをしても、すぐ回答が得られる環境の方が良い。そうなれば、初めて生きた施設になると思う。

**[福島県企画調整部長]**

- 資料10ページに、短期宿泊施設とある。研究室が来るとなると、長期宿泊のイメージが強いが、そこはどう捉えたら良いか。

**[南相馬ロボット産業協議会]**

- この場合は、宿泊できる施設のことを言っている。宿泊施設がないと、ホテルに戻って生活しなくてはならない。短期・長期間問わず、宿泊施設があればいいということ。

**[福島県企画調整部長]**

- 規制緩和も必要とのことだが、一番ネックに感じている規制があれば、お示しいただきたい。

**[南相馬ロボット産業協議会]**

- 特に、災害対応においては、遠隔操作が必要な場合が多いが、電波法との関係で、この地域では使えない等、非常に厳しくなっている。難しい問題だと思うが、よく検討してほしい。その上で、日本全国に展開できるという話になってくる。まずは特区でやってもらいたい。

**4 協議・報告事項**

**(1) 第4回イノベーション・コースト構想推進会議の報告について**

**(2) エネルギー関連産業検討分科会の第1次とりまとめ(案)について**

**[福島県企画調整部長]**

- 資料3-1、13ページ「浜通りのポテンシャルを生かした産業の集積」について、この事業規模は、どういう考え方に基づいているのか。

**[福島県商工労働部再生可能エネルギー推進監]**

- イノベーション・コースト構想に関して、今後、各地域で新しい工業団地の造成が進められていくことが予想されている。企業立地補助金の例をもとに考えると、工業団地の面積が約40ヘクタール、一つの企業あたり平均して1.3～1.6ヘクタール規模なので150社。1社が創り出す新たな雇用は平均11～12人なので、150社×12人=1,800人程

度と試算。

#### [福島県企画調整部長]

- 資料3-3の「コンパクトタウン推進検討会」。12市町村内で計画のある復興拠点と名前がかぶっている。対外的にも、エネルギーということがわかりやすい名前をつけるべき。

#### [企画調整部次長（地域づくり担当）]

- 検討する。

#### [双葉地方町村会]

- エネルギー関連産業について気になっているのは、今後プロジェクトを進めていく上で、言葉の使い方とプロジェクトの理解度が重要であるということ。
- ポイントは2つある。
- 一つは、プロジェクトの採算性が、今後の事業展開にかなり影響するのはということ。
- もう一つは、LNGだけでなく、バイオマスを使った発電。現在、廃棄物処理施設は町から離れたところにある。そのイメージを変えていかないと。コンパクトタウンの隣接地にそういったものを設けないと、送電線の問題や、コスト高になる。もう少し総合的にシミュレーションを突き詰めていかないと、個々のプロジェクトの実現が難しいのではないかと思う。
- 東京オリンピックまでに見える形にしていくとなると、もっと突っ込んだ議論を個々のプロジェクトにしてかないといけない。前回、私が申し上げた小水力発電も、まだプロジェクトに入っているが、今までやってきて上手く行っている事例・効果はそれほど大きくない。もっと吟味が必要。

#### [福島県企画調整部長]

- 推進会議でも、議論ばかりでありあまり進んでいないというご指摘もあり、今回エネルギーの分野では、風力発電の話と具体的な事業の進め方の枠組みをお示しした。コンパクトタウンについては、新地町から以前プレゼンがあり、LNGはそこから進めていく。立ち上げるだけでなく、具体的に進めないといけない。意見を受けてどう進めていくのか、事務局として詰めていきたい。

#### [いわき明星大学]

- エネルギーについては、いろいろなところと関係があるので、県庁で横断的な検討が必要。
- まず、このLNGプロジェクト。単純に考えて、どんなに性能が良くても、福島から二酸化炭素が相当出てくる。温暖化の問題に関して、どのくらい計算しているのか。
- 次に、ここにあるプロジェクトは本当に最先端のもの。おそらく県内の大学でこれをちゃんとやれるところはないのでは。現状では、産総研に相当期待をかけて、積極的に関わってもらおうよう、声かけをしていかないといけない。他から呼ぶより、それが一番早い。再生可能エネルギー+ $\alpha$ で、もっといろいろなエネルギー分野の研究が可能なところから協力が得られないと難しい。
- 藻類に関しては、期待はされているが、本当にどのくらい期待できるかわかっていない。割と昔から大きな実験があるが、どのくらいの規模のエネルギーがとれるのか、あまり聞いたことがない。

#### [福島県企画調整部長]

- LNG、IGCCは二酸化炭素が出る、その上で検討している。そもそもの発想としては、エネルギー関連産業分科会なので、再生可能エネルギーだけではない。もちろん、通常の石炭よりは効率が良いもの、技術的に新しいもとを取り入れている。

#### [福島県企画調整部次長(地域づくり担当)]

- 石炭が増えれば、二酸化炭素が増えるというご指摘。港湾も送電線もあるので、浜通りは条件が良い。IGCCで抑制を図っていきたいと思っているが、電気消費地においては計算上そんなに排出量は大きくはならない。

#### [福島県企画調整部長]

- 二酸化炭素の担当部門もあるので、そことも連動しながらしっかりやっていきたい。
- 藻類は、産総研と一緒にやる。その他もろもろのことについても事務局と相談しながら、産総研にご指導賜りたい。産総研がコミットした方がいいプロジェクトは他にもあるか。

#### [いわき明星大学]

- 具体的にどれというより、せつかく産総研があり、水素など動いているも

のもあるので、もっと広い分野で関わってもらった方がいいのでは、ということ。

- 二酸化炭素問題は、いくら福島県が努力しても、原町とか大きいところから一気に排出されれば、数字が全然減らない。県で相当困っていた事実もあったので、数字だけで目標値を掲げたときに、それが足かせになって、頑張っているのに減らないということにならないかという心配をただけ。

#### [福島大学]

- エネルギー関連産業分野のそれぞれのプロジェクトを進めるにあたり、様々な業種の人材が必要となる。
- 計画の中に人材育成をどうするかが見えてこない。ハード事業で何十億、何百億と比較すれば圧倒的に少ない金額でそれぞれの分野の人材育成はできると思う。
- 是非、人材育成についても多方面から対応できるように組み込む必要がある。是非、県主導で盛り込んでほしい。

#### [福島県企画調整部長]

- 昨年度から、県内中小企業の人材育成に対する補助事業を始めている。持ち帰り検討させていただく。

#### [南相馬市]

- 藻類について、県主導で我々も連携しながら取り組んでいる。
- 藻類の実用性について、将来に実用化できるか検討しているところ。航空系の燃料等への活用等の動きが出てきているが、大規模な面積が必要となる。その面積が国内で確保できず海外になる。実用化については、キーワードがもう1つぐらい必要。
- 人材育成について、中小企業や個別企業の人材育成、広野町には高校が新しくできたが、工業高校から出る技術者が不足している。県のテクノアカデミー等、よりハイレベルな技術で認定・認証を取る形で人材を出していければよいと考えている。

#### [いわき明星大学]

- 人材育成について、大学が主体となるプロジェクトに関わらず、地域が主導となるプロジェクトに関わるような人材育成をしないと変わらないと思う。これまでは、大学が主になってプロジェクトを組んで県や地域に協力してもら

っていたが、限界がある。

- 大学がサポート側になって地域が必要とした人材をとるためにどういうプログラムをつくるかを考えなければいけない。

### (3) 農林水産分野検討分科会の第1次とりまとめ（案）について

#### [川内村]

- 原発事故後の浜通りの復興が世界に発信できるような事業内容だと思う。一方、これらプロジェクトどこの市町村でやるのか。綱引きにならないよう県が調整していただきたい。

#### [福島県農林水産部技監]

- 意向を十分踏まえ、プロジェクトを展開していきたい。併せて、安全・安心を踏まえて検討しなければならない。浜地域農業再生研究センターも着工した。今年度中に立ち上げ、除染や実証研究を現地で実施する。そこでの検討を取りまとめた上で安心できる農産物を生産していく。

#### [南相馬市]

- 第3回の推進会議で中間整理を示している。今回の資料で、プロジェクトの自治体への落とし込みは各市町村へのヒアリングを行った上で絞り込んだという理解でよろしいか。

#### [福島県農林企画課長]

- お見込みのとおり。エリアについては、地域特性や作物の栽培可能性等を含めて広く示している。

#### [双葉町]

- 避難区域における農業プロジェクトはどうしても薄くなってしまふ。帰還困難区域を抱える町の農業再生は非常に多くの課題をもっている。とっかかりとしては、フラワーコーストや施設園芸などから取り組んでいかないといけないと思っており、今回、位置づけられたことはありがたい。ただ、双葉町に戻って、プロジェクトに携わろうとする場合、リスクがある。実施主体のリスク低減に関する手厚い支援を検討いただきたい。

#### [双葉地方町村会]

- プロジェクトの中で、これまで県として取り組んでいた6次産業化が見えて

こない。プロジェクトとして6次化を取り上げるについて検討いただきたい。

- 県のプロジェクトや国のプロジェクトは32年度という1つのポイントがある。それぞれのプロジェクトは壮大で、各自治体、また地域によって帰還の差がある。よってそれぞれのプロジェクトの進捗具合はロボット産業含めて、短期的な議論だけでは済まない。
- 目的は、福島県の復興、双葉地方の復興であり、そして日本全体の新しい産業のリーディング地域ではないかと思う。そうした場合、これらのプロジェクトを推進する組織づくりが必要ではないか。
- 会議での議論でなく、法人格を有した推進体制の整備について御検討いただきたい。
- 国、県、市町村等含め、産学官含めて総力で福島県のイノベーション・コースト構想をしっかりと実現していくため組織をつくり進捗管理、評価、関連産業の誘導を核として行う体制づくりを検討いただきたい。

#### [大熊町]

- CLTに関して、国、県に協力いただき勉強会を実施してきた。大変可能性のある取組だと思うが、問題は国としてどのように推進していくのか。
- CLTを推進することで所得をどのように確保していくのか。研究、開発、実証だけだとなかなか先が見えない。我々は、現場の人間として、付加価値がでるような考え方でこれらのプロジェクトを実施していくことを考えなければならない。

#### [福島復興局]

- 国として、推進会議等を活用しながら皆さんと一緒に検討を進めていく。
- 次のステップとして、それぞれのプロジェクトをどう具体化していくかが難しいところ。
- 農業については、県、市町村が動き出すが実際の農業者にどう展開していくかが課題。見せる農業として観光分野と結びつけるなど新しい観点を取り入れながらどう成り立つか考えていくことをいずれかの場でしっかり議論し、その上で必要な支援の話が出てくると思う。
- イノベ全体を推進するような法人づくり、我々の方でも少し議論をしていきたい。
- エネルギー分野の人材育成について、国際産学連携拠点との連携もあるのではないかと思う。

**[東北農政局]**

- 6次化の取組、まさに所得向上につながる出口の話。今は開発、実証に着手していくが、最終的にはそれらをどう販売につなげるかになる。単に売るだけでなく、付加価値を付ける、販路を拡大して高く売るかにつながる。この辺はいきなりというより、むしろ実証していく中で、付加価値をどう付けていくかを農政局としても県と一緒に考えてきたい。
- CLTの話は、林野庁にも確認してみる。

( 閉 会 )